

## 神保隠岐守（じんぼ おきのかみ）

戦国時代から江戸時代初期にかけての武将、神保利長（じんぼ としなが、1568年 - 1649年）を指します。彼は越中の神保氏の出身で、波乱に満ちた経歴を持つ人物です。

### 経歴と事績

出自: 父は神保氏春、母は織田信長の有力家臣であった佐々成政の娘です。

### 主君の変遷

当初は上杉景勝に仕え、多くの武功を挙げました。

慶長出羽合戦（1600年）の後、上杉家を離れて山形藩の最上義光に仕えました。

最上家が改易された後は、山形藩に入った鳥居家、次いで保科正之（山形藩および会津藩）に仕えました。

### 知行

最上氏に仕えていた時期は、山形市若木の若木館（わかきだて）に配され、2,000石を領していました。

### 関連する場所

若木館（山形市若木）：彼が居館とした場所で、現在は跡地として知られています。

長岡（村木沢）楯：一説には彼の居館であったと言い伝えられています。

神保利長は、上杉・最上という東北の二大勢力を渡り歩き、最終的には幕府の重鎮となる保科家に仕えるなど、時代の転換期を生き抜いた武将です。

山形城の北門屋敷から下条町、そして正覚寺へと繋がる、まさに神保隠岐守の足跡を現代に伝える生きた歴史である。会津へ渡った一族が幕末の激動を歩んだ一方で、山形の地にしっかりと根を張り、菩提寺を守り続けている。